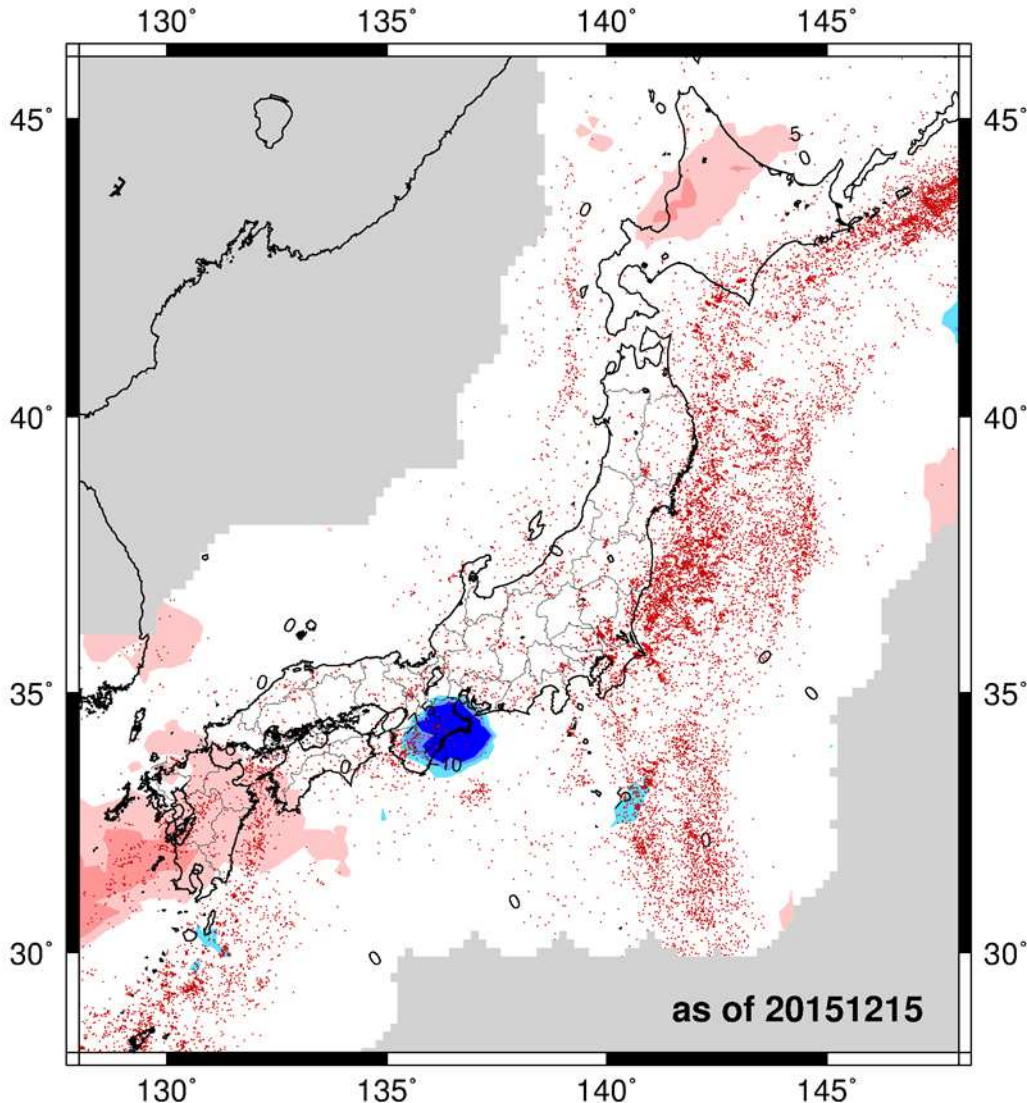




日本列島全域の(特に海域の地震をターゲットとした)地下天気図®

12月に入り、鹿児島県・トカラ列島近海で地震活動が活発化しています。トカラ列島では、諏訪之瀬島の御岳でも活発な火山活動が続いています。

今回お示しする地下天気図は、海域を含む日本列島周辺でのマグニチュード7クラス以上の地震をターゲットとした解析です。



この解析では、2000年以降のおよそ16年間といった長期的な地震活動のデータを使用しています。図の中の赤い点は、この期間に発生した地震を表します。日本列島で最も活発な地震活動というのは、東北地方の沖合である事がわかります。地下天気図では、それぞれの地域の平均的な地震活動からの“ずれ”を計算しています。そのため地震活動度が異なる地域でも、同じ基準で評価する事ができるのです。現時点で比較的長期間の地震発生傾向から**活発化の方向**にずれているのは、九州および九州西方海域の赤で示される領域です。今後、大きな地震活動が発生する可能性が存在するのは、**紀伊半島を中心とした青い領域**(地震活動静穏化領域)です。DuMA では今後も継続的に監視を続けてまいります。ちなみに10月10日時点の地下天気図は10月17日のDuMAニュースレターでご覧いただけます。また東北沖については、本地下天気図ではなく、311以降の地震活動により最適化したパラメータでも解析を行っています(11月28日のニュースレター)。次回以降、改めて東北沖についてはお知らせいたします。



DuMA/CEO の危機管理

少し時間が空いてしまいましたが、今回のニュースレターでは DuMA/CEO、岡本毅による危機管理についてのコラム（2回目）をお届けします。なお1回目のコラムは

http://media.wix.com/ugd/a5cf57_434373b98c6e4e538a2c4af8159d6e38.pdf

でご覧頂けます。

危機管理入門（2）～悲観的に準備して、楽観的に行動せよ！

3 「疑似体験」のすすめ

それでは、警察官ではない一般の方は、どの様にして危機管理に対する訓練をすれば良いのか？それに対する答えが、“疑似体験(Virtual Reality)”である。例えば、

① 皆さんが、今、私のこの話を公会堂で聞いていたとしよう。そこに、ライフルを持った犯人が乱入して来た。逃げるのか？逃げるとしたら、どこから逃げるのか？それとも？

② 皆さんが勤める会社の工場が、皆さんの目の前で火事になった。深夜残業していたので、事務所は勿論、現場にも誰も居ない。幸い未だボヤの段階なので、自ら消火するのか？それとも、119番通報するのか？はたまた、上司に電話連絡してその指示を待つのか？

③ 世田谷で起きた一家殺人事件ではないが、皆さんが帰宅したら、奥さん、子供さんが無残にも、息を引き取っていた。110番通報をするのか？119番通報するのか？それとも、犯人は屋内に居るかも知れないので、犯人捜しをするのか？

以上の様な事態は、仮に、Virtual なものであっても、夢想だにしたくない事象であろう。また、実際に、その場に居合わせた時に、“想定”した通りに行動出来る保障はない。ただ、一つだけ云えるのは、実際に、その様な事象に出くわした時には、少なくとも、気絶したり、極端に慌てふためいたりすることは無くなる（その可能性が減少する）であろう。

因みに、上記に対する“正解”（状況はそれぞれ異なるので、後述する“2nd Best , 3rd Best”も有り得る）は下記の通りである。

①' 取り敢えず、床に近い処、かつ、出来れば机の下等に伏せる。なお、火事等その他の突発事象に備えて、なれない場所に行った時には、必ず、屋内であれば複数の非常口、屋外であれば逃走に適した方角等を確認することをお勧めする。

②' 携帯で119番通報をしつつ、いち早く現場に駆け付けて消火作業に当たるべきであろう。上司への連絡等はそれからで充分である。因みに、当社（岡本硝子）の現場の緊急連絡網の真ん中には、大きな赤い文字で“119番”と書いてある。それは、実際には、ボヤの段階で119番通報すれば、後々の後始末が心配なので、取り敢えず上司に連絡する方が先だと考える人も居るであろうし、極端な話、火事を目の前にして“119番”が出てこない程慌てる人も居るからだ。

③' 自分の身を守ることを最優先しつつ（屋内に犯人が居ないことを確認した上で）、110番通報すべきである。110番通報すれば、けが人が居るような場合には、自動的に消防に通報される。なお、最近では、ホームセキュリティーの回線通報を遮断する為に、犯人は電話回線を切断又は話中にして架電出来ないようにすることもあるので、②の事例と同様、携帯電話は、危機管理には、必須のアイテムである。また、TVの刑事ドラマではないが、犯人の指紋を消さない様に、手袋をした方が良いのでは？と云う“通”の方もおられるかもしれないが、現場に残った指紋は全て採取し、その中から、家族等の「関係者指紋」を排除して、残った指紋（遺留指紋）が犯人の指紋であろうと推定するので、そこまでの心配は無用である。